

4) 近年のホンモロコの漁獲動向

井嶋重尾・孝橋賢一

【背景】近年のホンモロコの漁獲量は200t台で安定しているが、1982年には407tを記録したこともあり、より一層の漁獲量の増加のため、増殖事業の実施方法を検討する必要がある。

【目的】ホンモロコの漁獲実態を調査、解析することにより、近年のホンモロコの資源状況を把握し、増殖施策を実施する上での基礎資料とする。

【成果の概要】1. 94年11月～95年9月の間、沿湖の主要12漁協で購入したホンモロコの体長組成は、漁具、水域に関係なく、ほぼ同じ頻度分布を示し、時期の経過に伴って体長の大きい方向に移動した。また、どの時期においても年級群と思われるピークが3つ以上見られた。

2. 94年11月～95年2月の雌の体長組成には平均体長7.6cmの94年産、8.7cmの93年産、10.0cmの92年産、10.8cmの91年産の4つの年級群が、また雄では、平均体長7.3cmの94年産8.4cmの93年産、9.6cmの92年産の3つの年級群が存在すると判断した(図1,2)。どの時期においても、雄の体長は雌よりもやや小さかった。

3. 年級群組成のうち、93年産が最も大きく、94年産は小さかった。したがって、この間に主に漁獲対象となった年級群は93年産で、通常は最も漁獲量が多くなると思われる94年産は少なかった。

4. 年級群組成を使用して、時期、漁具、水域によって漁獲されたホンモロコの年級群比に差があるか統計解析したところ、差はほとんど無かった。0歳魚が資源加入する11月頃から、時期、漁具、水域にかかわらず、どの年級群も同様に漁獲されていると推定された。

【成果の活用】95年11～12月に漁獲されたホンモロコは、ほとんどが95年産で量も少なかった(図3)。また、CPUE(出漁数あたりの漁獲量)も94年12月が7.4kgに対し、95年12月は3.7kgとなり、資源が少ないことをうかがわせた。11～12月の体長組成がそれ以降の体長組成を反映したものであるとするならば、96年は95年産中心の漁獲が続き、不漁年になるものと予想される。

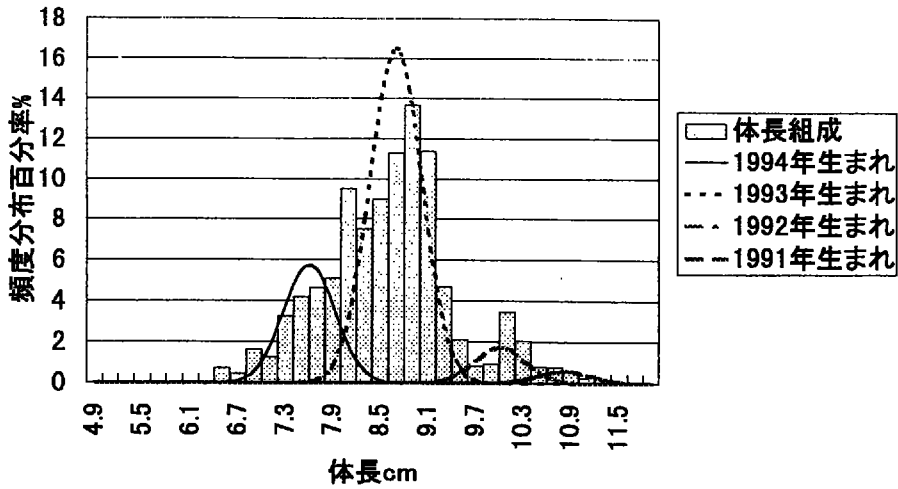


図1 1994年11月～1995年2月に水揚げされたホンモロコの雌の年級群組成の推定.

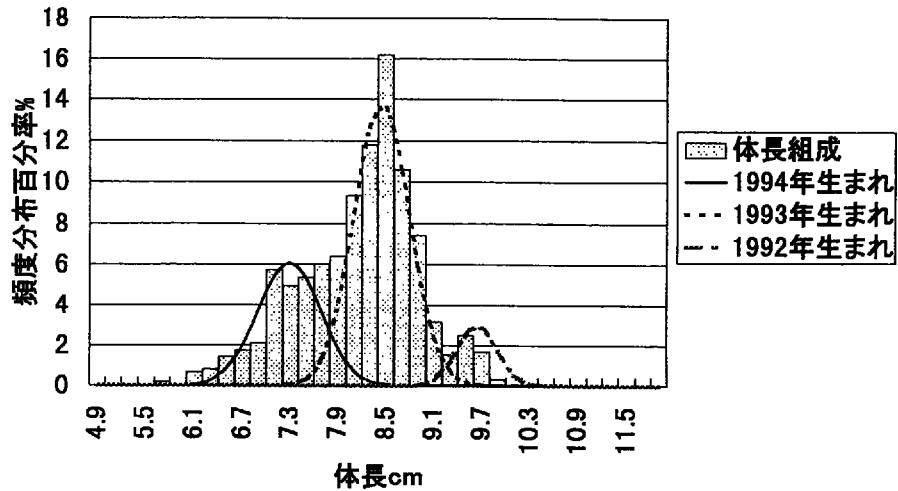


図2 1994年11月～1995年2月に水揚げされたホンモロコの雄の年級群組成の推定.

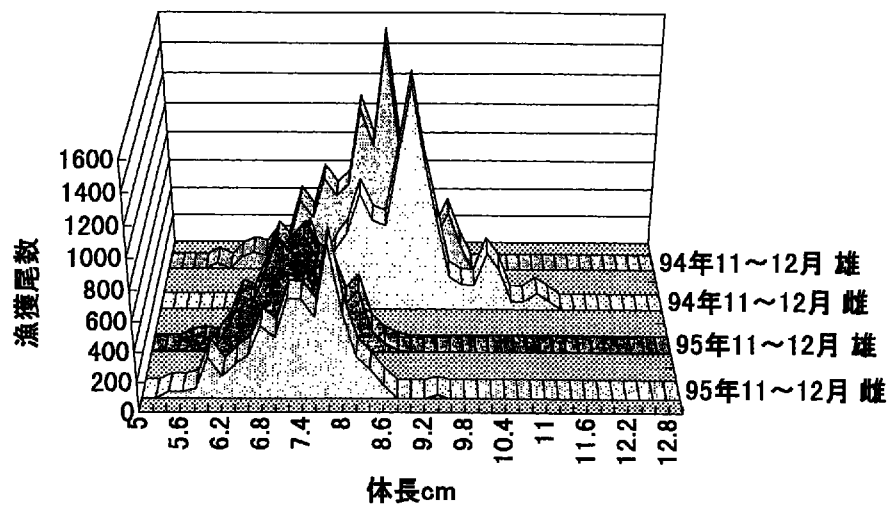


図3 94年および95年の11～12月における体長別漁獲尾数.